

“ Coffee break Talk. 7 想像力と感性 ”

支部長 今林 光秀

JSCA 九州支部の皆様、猛暑とコロナ禍の夏が過ぎつつある今日この頃、ご健勝の日々を過ごされていることお祈りします。

福岡市美術館で「国宝鳥獣戯画と愛らしき日本の美術展」を見ました。「鳥獣戯画」は最も有名な日本美術のひとつであり、京都高山寺所有（保管は東京国立博物館と京都国立博物館）の平安・鎌倉時代の国宝です。甲/乙/丙/丁の4巻ありそれぞれ縦30cmほど×長さ930~1,200cmほどの巻物で作者未詳です。展覧会前期の甲/丁の展示を見ました。後期が乙/丙の展示です。 [鳥獣戯画展チケット（福岡）]



甲巻は擬人化された動物たち(兎/蛙/猿/鹿)の遊戯が躍動感あふれる筆致で「愛らしく」、自分が兎年なこともあり特に兎の姿に愛着を感じ、鼻をつまみながら後ろ向きに水に飛び込む兎や、逃げる猿を蛙と一緒に追いかける兎など、子供の頃の自分みたいで笑えました。丁巻は人間のみで構成され勝負事に挑む姿が多く描かれており、甲巻での動物たちの場面を人間の姿にパロった絵もあり、甲巻に敬意を表し描かれたような丁巻のユーモア溢れるセンスを感じました。紙に墨でサラッと描かれただけの紙本墨画ですが、見ていて気持ちが朗らかに豊かになりました。平安時代12世紀にこの簡潔さとユーモアを表現できる日本人ってどんなに**想像力**と**感性**の豊かな人々だったのだろう？と感心し羨ましく思いました。

右の写真は以前ヴェネチアの街角で見かけた玄関脇の呼び鈴。ちょっとしたことなのでしょうが、これを自分が実現できるかと考えると、そのセンスとユーモアに感心せざるを得ません。DXの目覚ましい便利な昨今だからこそ想像力と感性が大切になるのではと思います。ゆとりとユーモアも欲しいですね。



さて、我々構造エンジニアにも想像力と感性が必須であることは言うまでもありませんね。川口衛先生の著書「**構造と感性**」はとても良い本です。また、構造家の金田勝徳さんが「**欠かせない想像力**」と題してA-Forumに投稿された文章が示唆に富み目を覚まされます。『構造設計者の役割の大半は、目に見えない力の大きさとその力の流れとを想像し、安全を確保することなのではないか。そのために思索をめぐらし、構造材の在り方や形を考えデザインしている。その過程で、命綱に沿ってしか移動できないような構造計算一貫プログラムを使い、安全ネットのように細かい網を張り巡らせた法規準の内側に居れば安全と錯覚してはいないだろうか。』これは良く考えないとイケませんね。

法規準を理解・準拠することは当然必要ですが、それだけが全てではなく、想像力と感性を發揮して責任ある構造デザインを実現する努力が尊いのだと思います。この大切なことを、想像力と感性溢れる平安時代の先人が描いた動物たちに教えてもらった気がします。

< 2022年9月 展覧会の後はやはりCoffeeが美味しい! >